



水野以文「市川風景」



尾内健治「白い花」

(会員)

伊東總吉  
宇都宮義文  
上村真澄  
小山美枝  
佐々木征  
佐藤裕幸  
杉野和夫  
鈴木忠男  
鈴木正道  
中井嘉文  
野口勉  
野原宏  
平園賢一  
堀良慶

(ゲスト)

生活の友社  
大澤景

(敬称略・50音順)

NPO法人あーと・わの会 通称：「わの会」

# 第41回放談会



2015年4月29日(水・祝)13時～17時  
於 東京・京橋区民会館 洋室2号室

# 第41 回放談会

1. 日時 2015年4月29日(水・祝) 13時～17時
2. 場所 東京・京橋区民会館 洋室2号室
3. 出席者(計15名、敬称略、50音順)  
<会 員>伊東總吉、宇都宮義文、上村真澄、小山美枝、佐々木征、佐藤裕幸、杉野和夫  
鈴木忠男、鈴木正道、中井嘉文、野口勉、野原宏、平園賢一、堀良慶  
<ゲスト>大澤景(生活の友社 美術の窓・アートコレクター記者)
4. 司会進行:佐藤裕幸、 書記:鈴木忠男、 写真・編集制作:野口勉
5. 放談会(発表順)

## ① 鈴木忠男



作家不詳 「美人写真 8種」 ちりめん紙に印刷(写真から) 手彩  
19. 5cm円形 制作年:明治後期

ちりめん本では「日本昔噺」が海外でも有名である。これも同じ頃のものだろう、着色も同じ方法だろう。ちりめん紙を使用した紙もの(木版画もある)の期間は短かったのではないか、あまり見たことがない。新井薬師の骨董市で買った珍品である。横浜写真のようなお土産品で、おそらくまわりの折り面を丸台紙の裏に糊づけして額装(丸)して売ったのではと想像する。元の写真は絵葉書もあるのではないか。石黒敬章「幕末・明治のおもしろ写真」(コロナ・ブックス)の表紙の笑う女が1枚入っている。

## ② 中井嘉文



尾内健治 「モンマルトル」  
「白い花」



油彩・キャンバス F4号 制作年：不詳  
油彩・キャンバス SM号 制作年：不詳



1931年東京都豊島区長崎生れ、1947年都立大泉高校卒、水彩連盟展入選  
1956年武蔵野美術大学卒、自由美術会員・主体美術協会会員、  
週刊読売表紙コンクール二等賞、自由美術佳作賞受賞、外遊三回、「汐留駅構内」150号JR東日本  
収蔵、1992年池袋栗原画廊で個展・三回、1999年5月21日没

師は春日部たすく（水彩）、井上長三郎（油彩）、尾内は私の都立中学での同級生でした。卒業後方向は違いましたが画家になったことは知っていました。東長崎のゴッホを目指していたこともあったようです。堀さんに教えて頂いたアトリエ村の小さな画廊と自称されているギャラリーいがらしのご主人も尾内のことはよくご存じで池袋アトリエ村には終始遊びにか見学かわかりませんが来ていて、みんなから健坊、健坊と呼ばれてかわいがられていたようです。

\*練馬区医師会だより第564号（思いがけなく旧友の絵に「尾内健治君の思い出」）を発行

## ③ 鈴木正道



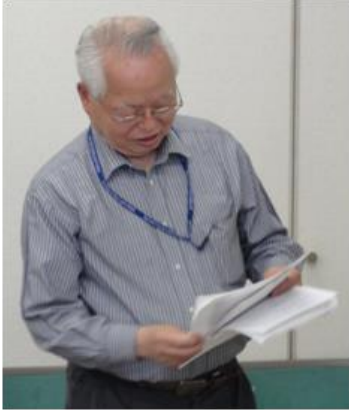
大沢昌助（1903～1997年）「森にいく道」 制作年：1997年

<私が入記作品を放談会に持ってきた理由、その他>

大沢氏の命日に近いこと。戦後、抽象画が多く具象は珍しい。1997年（平成9年）制作。  
私としては勝手に「辞世の画」と思っている。風景は千葉の田園であり色調が明るく原色を使っている。氏の初期の具象画は千葉の海岸の風景（もちろん人物が入るが）が多い。  
辞世というと松尾芭蕉の句「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」を連想。（真偽のほどはわからない。）  
大沢氏の作品は日本人好みの幽玄枯淡の世界に程遠い。「わの会の眼」に出品した「めばえ」も1997年作。原色がいい。購入1997年5月、Aさん主催、日比谷I画廊で求めた。（大沢昌助新作展）、会期中死去。

<談>鈴木（忠）：東邦画廊個展の時に大沢さんが亡くなった。今年1月にはその画廊主中岡さんが急死され閉廊となった。大沢遺作展は毎年5月アビアントで大沢昌助絵画資料室ナギサ（外房）の企画協力で行っている。

#### ④ 伊東總吉



河内成幸 「ワンマンショー展のポスター」 シルクスクリーン 76.5×52cm 制作年:1984年

1948年生れ、1973年多摩美術大学油画科卒業、日本版画協会会員、国際版画展で多数受賞  
名古屋造形大学客員教授、2011年紫綬褒章  
(主な収蔵先)

大英博物館、ノルウェー国立美術館、プーシキン美術館、東京都美術館、栃木県立美術館、山梨県立美術館

原画は木版画(「木版凸凹摺り」という独自の手法による)

画面に動きみせる特徴・木片がbreakしたり、鶏が飛んだりすることを題材にしているもの  
として神田小川町の版画店で入手した。ポスターながら直筆サインがある。

#### ⑤ 杉野和夫



山下巖 (1898～1977年) 「大漁」 紙本大色紙・彩色 4号 制作年:不詳

1915年川合玉堂門下の山内多門に師事。1927年第8回帝展に「春」で初入選。  
1928年第9回帝展に「秋林」を出品。1932年師多門没後は川合玉堂長流画塾に入門。  
後に児玉希望の戊辰会に参加。また三光会を結成。1934年第15回帝展に「徂秋」を出品。  
詩情たどる風景画に秀作を残す。1946年第1回日展で「春閑」が特選、以降入選多数。  
玉堂門下の三多圭会を主な発表の舞台とし晩年は画壇を離れた。

昔懐かしい風景であり、思わず購入した作品です。子供の頃、近くの浜に遊びに行った時に  
何度も見かけ、自分も一生懸命に網を引っ張った思い出がよみがえります。



## ⑥ 堀良慶



荒井龍男（1905～1955年）「土 連作」油彩・板 F10号 制作年:1943年 加筆1950年

日大法文学部卒、太平洋画会研究所、1930年から二科展に出品、1934年から2年間渡仏、パリのアカデミー・グラン・ショーミエールで学び、彫刻家ザッキンに師事。サロン・ドートンヌ、サロン・チュイルリなどに出品。1937年自由美術家協会創立に参加。戦後1950年モダンアート協会設立、1952年ニューヨーク・リバーサイド美術館で個展、1953年パリ、1954年サンパウロ近代美術館で個展、作品4点が同美術館収蔵、1955年サンパウロ近代美術館で個展、サンパウロ・ビエンナーレ日本代表となり「朱の中の朱」を出品、同年帰国。ブリジストン美術館で個展、1991年目黒美術館で回顧展。主な収蔵先は東京国立近代美術館、板橋区立美術館、目黒区美術館、神奈川県立近代美術館、大分県立芸術会館、野原宏さんが代表作を含め100点以上収集。

私は荒井龍男の色彩の美しさにうたれ収集しています。この絵は戦前に描かれ戦後に加筆され、色彩が深まっているようです。竹の色、植物の色、土手の色、土の色、空の色まで土色です。その色彩に魅せられ、つい買ってしまいました。竹林の向こうに土手がある。人工の土手ではないかと思ひ巡らせています。土は関東ロームかも？手前の植物の葉の形がモダンで動きがあり面白い。不思議な絵だといつも眺めています。制作時期と加筆時期が戦前と戦後、住まいは東京と京都。

## ⑦ 上村真澄



加藤正（1926年生）「思い出」油彩・板 F3号 制作年:不詳

1950年東京芸大油絵科卒、瑛九等と東京にてデモクラート美術家協会を設立し第6回美術展を開催。読売アンデパンダン展出品、岡本太郎の主唱する国際アートクラブに参加。選抜優秀美術展、東京国際版画ビエンナーレ展出品。現代美術の動向・その暗黒と光芒展出品、外に個展およびグループ展等を毎年続けている。郷里宮崎でも2001年に新芸術集団「フラクタス」を結成。串間市文化会館の緞帳制作。宮崎県詩の会会員、元・萩原朔太郎研究会会員、元・東京造形大学講師

瑛九生誕100年を記念したイベント会場にて加藤先生に出会えたことがきっかけで交流いただき作品を収集させていただくことになりました。宮崎の風土を思わせる空の青、新緑のグリーン、太陽のオレンジを配した作風の自由さ、鮮やかさに魅力を感じています。先生の作品でハートを描いているものがあり、これらをより収集させていただいています。

<談>鈴木(忠):野原さんから「ピカソ絵画のように女の横顔と男の顔が重なっている」との見方があり、そういえば(瑛九から指導された)池田満寿夫も同じような絵を描いていた。

## ⑧ 平園賢一



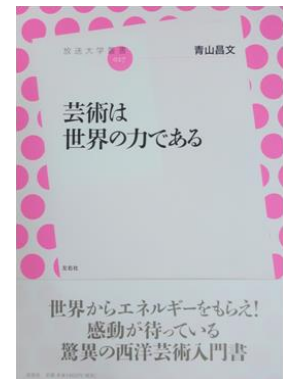
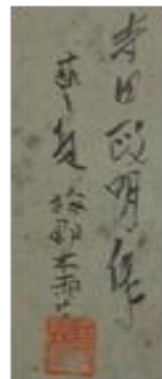
落合朗風（1896～1937年）「半裸」 紙本・着彩 120×60cm 額装(立入好和堂) 制作年:1934年

1916年文展に「春なが」が初入選し早くから注目される。1919年院展に「エバ」を出品、横山大観を感嘆させたといわれる。その後も連続入選するが院展の審査に疑問を持ち脱退。1931年から青龍社展に参加。名作「華厳仏」で青龍賞、川端龍子と並び賞されるが1934年脱退し明朗美術連盟を設立。いよいよ自らの画境を確立しようとした矢先1937年に40歳という若さで生涯の幕を閉じた。

この作品は送られてきた「新古美術わたなべ」の図録に掲載されていた。一目ぼれであった。この作品の堂々たる健康的な色気は見事だ。また褐色は色やけではなく白を際立たせるために茶色の紙本を使っているためである。この裸婦のポーズは西洋の古典絵画風であり彼の近代絵画への模索を見てとることができる。ちなみに本画は足立美術館に収蔵されている。NHK日曜美術館で幻の画家として放映され画集が出版された。

朗風の死を悼んだ親友の藤田嗣治が「おそろしい将来を持つ日本画壇の一人であった。何と言っても早く死なせた事は惜しんでも餘りあることである。」との言葉を残している。

## ⑨ 小山美枝



寺田政明（1912～1989年）「はぜ」水彩・紙 制作年：不詳

1927年九州画学院に入学しゴッホやゴーギャン、ブレイク等の影響を受けた。1928年上京、小林萬吾の同舟舎絵画研究所に通う。1929年太平洋画会研究所で学ぶ。1932年第2回独立美術協会展で「風景B」が初入選、1933年池袋モンパルナスで活動、1937年第7回展で協会賞。戦後は詩情と哀感漂う作品を制作、文人との交流も多く小説の挿絵や装飾も手がけた。俳優寺田農は長男。

この作品を購入した時に「小山さん本当にそれ必要？」と男性の方々から聞かれました。男性が収集する絵と女性が収集する絵の違いがあるのか考えさせられる作品です。

現在、放送大学で学んでいます。（美術史のこと、教授のことなど）

⑩ 佐々木征



水野以文（1890～1974年）「市川風景」水彩・紙 4号 制作年：1934年頃

1907年太平洋画会研究所、日本水彩画研究所に学ぶ。1909年第3回文展に「晩夏」初入選。1910年第4回文展に「若松」入選し褒状を受ける。第8回太平洋画会展に「柳」他6点入選。1911年第5回文展に「池畔の森」「曇りの夕」入選、第9回太平洋画会展に「天龍川筋」他4点入選、1912年第10回太平洋画会展に「椿咲く頃」他2点入選、1913年日本水彩画会の創立に発起人として参加、評議員となる。以後日本水彩画会を中心に活動。運営委員などを務める。1944年戦時特別展に「神苑正気」無鑑査出品。1947年水彩小品展に「麦秋の折原村」出品（資生堂ギャラリー）、1951年日本水彩画会名誉会員となる。第8回～第13回日展で連続入選、以降日展に14回入選。1990年「河上左京と水彩画展」に「林」他3点展示される（山口県立美術館）、紫綬褒章受賞

私の住まいと同じ県内の市川ということで購入した。細密丁寧な描写である。

⑪ 野口勉



内田静馬（1906～2000年）木版画家

70年間の画業を木版画一辺倒にこだわった希少な作家である。1934年パリ展に出品した「海水浴場」がパリ国立図書館に買い上げられる。2005年川越市立美術館による顕彰から再評価された。

(主な収蔵先)川越市立美術館、和歌山県立近代美術館、町田市立国際版画美術館、国立国会図書館、パリ国立図書館、川越ペンクラブ、埼玉グラフ株式会社

①「花」木版画・紙 29.8×22.6cm 19/30 制作年：1993年

花瓶に挿された色とりどりのスイトピー。最後の作品といわれる。輪郭線を伴わない表現のせいもあって往年の力強さは影を潜めどこか儂げである。(図録：素朴美へのまなざし・解説頁から)

②「運河添いの街」木版画・紙 30.5×41cm 30/45 制作年：1969年

1968年渡欧した際に「アムステルダム風景」を制作しており、本作品は同作と同じ「プリンセン運河」である。墨版を含め全5版から成り背景の黄系から青系へのグラデーションは1版で摺っている。



⑫ 佐藤裕幸



萩谷巖（1891～1979年）「ポンヌフ」 油彩画・キャンバス F8号 制作年:1952年

1908年白馬会葵橋洋画研究所で学ぶ。1919年光風会展入選、以降多数入選、1922年渡仏アカデミー・コラロッシュのシャルル・ゲランの教室に通う。1924年サロン・ドートヌヌに「モンマルトル風景」が入選、1926年サロン・ドートヌヌ会員、1933年帰国、団体展に所属せず個展で制作発表。バラが得意で「バラの萩谷」といわれた。

私は萩谷のパリ風景が好きでこの作品も唯一パリの「ポンヌフ」である。ポンヌフは、セーヌ川に架かる橋である。フランス語で新しい橋の意味であるが、16世紀から17世紀にかけて建設されたものでありパリに現存する最古の橋である。この他に萩谷のパリ風景を探しているがなかなか見つからない。

⑬ 野原宏



神奈川県立近代美術館で開催された「日韓近代美術家のまなざし—朝鮮で描く」展に私のコレクション・荒井龍男の作品2点が展示されました。

神奈川県立近代美術館葉山館に展示、4月4日～5月8日

その後、巡回展

新潟県立万代島美術館:5月16日～

6月28日

、岐阜県美術館:7月9日～8月23日

北海道立近代美術館:9月1日～

10月12日

、都城市立美術館

:10月23日～12月6日

福岡アジア美術館

:12月17日～2016年2月2日



○ゲスト

生活の友社 美術の窓・アートコレクター記者 大澤景さん



放談会の取材と発刊誌の紹介をされました。

アートコレクターズ6月号・特集の「風景画」に本日の放談会で発表された風景画を掲載予定ということです。(5月25日発売)

○出席会員(見学のみのみ)

宇都宮義文さん

多忙でなかなか放談会に出席できませんが  
本日は楽しく過ごせました。

(放談会終了後の懇親会で幹事役をしていただきました。)



○放談会終了後、希望者9名で懇親会を実施しました。

○次回放談会は平成27年7月に実施予定です。

<編集後記>

ゴールデンウィーク始まりの4月29日、東京駅は予想通りの雑踏でしたがそこからわずか10分弱の京橋会館は嘘のような静けさで美術の話をするのにとってもふさわしい心地よい空間でした。多様な作品に興味津津、解説・紹介にも熱が入りあっという間の4時間でした。(の)

発行 : NPO法人あーと・わの会 通称「わの会」

発行日 : 平成27年5月吉日

編集 : 実行委員

佐藤裕幸(司会進行) 鈴木忠男(書記) 野口勉(写真・編集制作)

連絡先 : 事務局 〒277-0871 柏市若柴1-358 堀良慶

TEL 04-7134-8293 [ryokeihori@yahoo.co.jp](mailto:ryokeihori@yahoo.co.jp)

発行部数 : 75部